

## 1-6 気象概況

年 月	降 水 量 (mm)				気 温 (°C)					風向・風速 (m/s)					日照時間 (h)
	合 計	日最大	最大		平 均			最 高	最 低	平均風速	最大風速		最大瞬間風速		
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低				風 速	風 向	風 速	風 向	
平成28年	2,451.5	190.5	47.5	17.0	17.8	22.7	13.9	38.0	-6.5	2.2	10.7	南南西	19.7	南南西	1707.1]
29	1,678.5	138.5	58.5	21.5	16.9	21.9	12.8	37.7	-3.6	2.1	11.0	南	19.9	北東	2081.0
30	1,900.0	277.0	49.5	15.5	17.4	22.4	13.2	39.5	-3.8	2.2	13.1	南	23.6	南南西	2139.0
令和元年	2,154.0	323.5	90.0	22.5	17.6	22.6	13.5	38.4	-1.1	2.1	20.0	南	32.4	南	2001.4
2	2,779.0	271.0	92.5	21.0	17.5	22.5	13.3	37.8	-2.0	2.2	15.5	南南東	29.9	南	2102.9
3	2,396.5	294.0	72.0	20.0	17.8	23.1	13.6	37.2	-5.0	2.2	15.5	南	25.5	南	1711.8]
4	1,617.5	184.5	63.0	19.5	17.5	22.7	13.4	37.9	-2.8	2.2	12.2	南	22.9	南	2116.5
5	2,003.5	205.5	65.0	19.5	17.9	23.1	13.7	38.2	-4.2	2.0	11.6	南南東	20.8	南南東	2039.7
6	2,072.0	118.0	44.0	21.5	18.6	23.6	14.7	39.5	-2.6	2.2	9.8	南東	18.1	北北東	1928.2
7	1,554.5	107.5	84.5	22.0	17.9	23.1	13.8	38.6	-2.7	2.1	8.6	南南東	23.4	東	2135.7
【 内 訳 】															
令和7年1月	12.0	6.0	2.5	2.0	5.7	10.7	1.6	17.0	-2.4	1.6	6.9	北北東	13.7	西	152.4
2	38.5	17.5	5.5	1.0	4.6	9.8	0.5	16.3	-2.7	1.9	8.1	北北東	15.8	北北東	156.4
3	123.0	28.5	13.0	5.0	11.4	16.6	7.3	25.5	0.2	2.9	8.3	北北東	16.0	西北西	148.7
4	66.5	13.5	5.0	3.5	15.9	22.1	10.5	30.0	4.4	2.4	7.1	南	13.6	南	223.1
5	287.5	82.0	29.0	11.0	19.8	25.0	15.3	30.1	9.5	2.3	8.0	南	14.3	南	163.0
6	348.5	96.5	46.0	11.5	25.1	29.9	21.5	36.2	14.3	2.0	8.5	南南西	19.7	南南西	138.1
7	128.5	52.0	42.0	22.0	30.1	36.0	25.9	38.1	22.8	2.2	8.6	南南東	23.4	東	286.8
8	216.5	79.5	41.0	10.5	29.4	34.5	26.0	38.6	23.8	2.1	8.3	南	16.1	南南西	221.7
9	135.0	29.5	19.5	15.5	27.6	32.2	24.6	36.5	19.8	2.0	6.0	北東	13.7	東北東	153.8
10	136.5	107.5	84.5	20.0	22.3	27.0	18.7	33.8	8.6	2.5	6.0	東北東	12.0	東北東	161.3)
11	25.0	15.0	5.5	4.0	13.6	19.3	9.0	25.5	3.9	1.7	6.0	西北西	14.0	北西	170.9
12	37.0	11.0	5.5	1.5	9.0	14.2	4.8	21.7	-1.4	1.6	7.7	北北東	13.6	北北東	159.5

資料：気象庁HP「過去の気象データ検索」

※この表は、地域気象観測所（北緯33度18.2分、東経130度29.6分、海拔7m、久留米市津福本町）における観測値である。

※掲載している気象データは、過去にさかのぼって修正される場合がある。

※数値に関する記号の説明について、以下のとおり気象庁HP「過去の気象データ検索＞利用される方へ」より説明文を抜粋する。

「]」：統計を行う対象資料が許容範囲で欠けていますが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱います（準正常値）。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なりますが、全体数の80%を基準とします。

「)」：統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています（資料不足値）。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いませんが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合があります。